

第3学年 国語科学習指導案

令和5年10月3日(火) 第5校時

3年1組 生徒33名

《育成を目指す資質・能力》

- ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使う力。 【知識及び技能(3)イ】
- ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ力。 【思考力・判断力・表現力等C(1)エ】
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度。 【学びに向かう力、人間性等】

- 1 単元名 中学校生活を充実させるためのアドバイスを『論語』の一節を引用して伝えよう。
～『論語』に表れているものの見方や考え方から、身近なことについて思いを巡らせ、自分の考えをまとめる～

- 2 教材名 「論語」(東京書籍『新しい国語3』)

- 3 単元について

(1) 教材観

『論語』は古くから読み継がれてきた古典作品である。紀元前551年頃に生まれたとされる孔子の言行を記録したものであるが、そのような、はるか昔の人物の考えが、日本人の価値観に少なからぬ影響を与え、現代の日本人にも通じる部分が多くあるということは大変興味深い。また、それが日常生活と結びつく場面も多くあることから、生徒自身も納得することができたり、これからの教訓として受け入れようとしたりすると考えられる。したがって、『論語』を学習することは、古典作品を学習する意義を改めて考えることにもつながる。

本教材は、中学三年間の古典学習の締めくくりとして位置づけられており、生徒それぞれが人生の次のステップへと踏み出そうとする時期に、孔子の言葉に触れ、自己の在り方や社会の在るべき姿等、今後の人生に思いを馳せるきっかけとなる教材である。人間、社会、自然などについて、自分の考えを広げたり深めたりし、これからの社会を担う人材として、自分の意見をしっかりとつとめることは重要なことである。したがって、『論語』をきっかけにして、さまざまな考えに触れて自分の考えを深め、自己や社会について見つめ直す機会としたい。

(2) 生徒観

令和5年度全国学力・学習状況調査において、本学級の生徒に見られた課題は、大問4四、第1学年「読むこと」C(1)エ、大問1四、第1学年「話すこと・聞くこと」A(1)エであった。大問4四は古典作品が取り扱われているが、普段の授業において、古典作品への抵抗感がある生徒が多く、現代まで親しみ受け継がれてきた古典作品の良さを感じることができる生徒は少ない。ま

た、出題の意図である、文章の構成や展開、表現の効果について評価することに課題があった。二つの文章（『竹取物語』の原文と星新一が書き改めた文章）を比較し、言葉の細かい意味を捉えたり、その言葉を用いた意図等を考えたりする力が定着していない。さらに、この問題に関しては無解答率も高く、言葉の意味や働き、使い方に着目して思考することや、見方・考え方を働かせた授業の展開、指導を丁寧に行う必要性が見えてきた。

大問1四では、自分の考えを書くという点に課題が見られた。文章を読み取り、星野さんの話の内容を取り上げることはできているものの、「社会で働く上で大切なこと」に関する、自分の考えを形成することにつまずきがあったと予想される。様々な文章や人の考えに触れ、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて、自分の考えを形成していく必要がある。さらに、社会生活の様々な事象についてより広い視野をもつことも必要である。

本学級の生徒は、積極的に取り組める生徒が多く、グループで教え合ったり、意見交換をしたりなど、交流することに前向きである。そこで、互いに考えを交流することで、より自分の考えを広げたり深めたりさせる場を設定した。その際、読んで理解したことと、自分の知識や経験をつなげ、『論語』を引用するといった既習を生かして分かりやすくまとめさせるようにしたい。

(3) 指導観

令和5年度全国学力・学習状況調査で見られた課題から、文章を読んで理解したことをもとに自分の考えを広げたり深めたりする力、また人間、社会、自然などについて自分の考えをもつことが必要であると考えられる。本単元を通して付けたい力の一つに社会や自然について自分の考えをもつことがある。『論語』に見られる孔子の考えを理解するには、『論語』の本文を読むだけでなく、身近な体験や事例と関連付けることで、理解が進むと考える。したがって、言語活動に「中学校生活を充実させるためのメッセージを書く」という目的を設定することで、相手意識をもたせ、よりわかりやすく伝えようとする意欲をもって授業に臨ませたい。本校には、毎年卒業生が漢字一字を選び、その漢字を選んだ思いを下級生に託していくという伝統がある。選ばれた漢字は、卒業式や次年度の入学式の壇上に大きく飾られ、その漢字に込められた思いを、下級生が引き継いでいっている。この、「下級生に伝えていく」という取組は、本校の継続した取組でもあるので、上級生の立場から、『論語』を通して感じた人間や社会の在り方として大切なことを伝えるメッセージを書くという授業展開をしていきたい。

また、『論語』の内容と身近な事例とを結び付け、わかりやすく表現しようとすることは、言葉による見方・考え方を働かせることでもある。事象と言葉との関係を考えたり、言葉を言い換えたり補足したり、言葉の使い方に着目して捉えたりする等、相手意識をもち、言葉にこだわって表現することを指導していきたい。

本単元では、さまざまな意見や考えに触れさせるために、より多くの『論語』を読む機会を設定し、朝読書の時間も活用するようにしている。本だけでなく、オーテピアと連携して電子書籍で『論語』を読むことも取り入れる。『論語』に表れたものの見方や考え方を、自分の知識や普遍的な事実と結び付け、下級生にメッセージとして伝える。本時では、自分の書いたメッセージを評価し合うことによってさらにブラッシュアップして考えを深める。この一連の活動で、今後の自己の生き方や社会の在り方についての考えを深めるきっかけになるように仕組んでいく。

4 単元目標

・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。

【知識及び技能（3）イ】

・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。

【思考力・判断力・表現力等C（1）エ】

・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

5 本単元における言語活動

『論語』を読んで、その言葉に表れている孔子の考えを分かりやすくまとめ、評価し合う。

（関連：【思考力・判断力・表現力C（2）

イ】）

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 【(3) イ】	①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 【C（1）エ】	①積極的に様々な論語に表れている考えを知り、人間、社会、自然などについて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って作成したメッセージを評価し合い、よりよいものに修正しようとしている。

7 指導と評価の計画

時数	○指導のねらい（目標） ・学習内容、学習活動	評価	
		評価規準	評価方法
1	○『論語』について知り、学習課題の見通しをもつ。 ・作品の概要をまとめる。 ・単元のゴールは、教科書掲載以外の『論語』について、適切に引用をし、自分の意見や考えを深めていくことであると確認する。 ・漢文の読み方（訓点）の復習をする。（家庭学習も活用する。）		
2	○『論語』に表れている孔子のものの見方や考え方を捉える。 ・『論語』の五つの節を確認する。 ・『論語』の五つの節に表れているものの見方や考え方が何かを個人で考え、事例をもとに書く。	【思考・判断・表現】① ここでは、『論語』に表れているものの見方や考え方について自分の意見をもっているかを確認する。	ノート 振り返りシート

3	<p>○前時で書いた、五つの節についてのものの見方・考え方を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ節を共有し、ものの見方・考え方を比較する。 ・自分のものの見方・考え方と比較する。 ・グッドモデル、エラーモデルを示し、引用が適切か、自分の考えが書かれているか、ふさわしい事例を取り上げているか等、条件を満たしているかを確認する。 		
4	<p>○中学校生活を充実させるためにふさわしい『論語』を一節選び、後輩へ向けてのメッセージを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍や電子書籍から、『論語』を一つ選ぶ。 ・適切な引用、事例、言葉にこだわって書く。 ・前時にグッドモデル、エラーモデルをもとに確認した条件に加えて、相手意識をもたせた書き方を意識して書く。 		
5 (本時)	<p>○グループでメッセージを評価し合い、自分の考えを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3時に確認したエラーモデルを再度示し、評価の仕方を確認する。相手意識をもった項目も評価の観点に追加する。 ・前時に考えたメッセージをグループで共有し、評価し合う。 ・タブレットで記入する。 ・タブレット（電子書籍）は適宜活用する。 ・共有で気づいたこと等をもとに、自分のメッセージに加筆・修正をする。 	<p>【知識・技能】① ここでは、適切に『論語』を引用して、下級生に伝わるようにわかりやすく書けているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現】① ここでは、友達の意見から自分自身の考えの広がりが見られたかを確認する。</p>	ワークシート 振り返りシート
6	<p>○前時に練り上げたメッセージを完成させ、共有し、単元の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを完成させ、誤字脱字を確認する。 ・タブレットに記入したメッセージを紙媒体に印刷する。(後輩に掲示して受け継げるようにするため。) ・単元の振り返りを行う。 	<p>【主体的に取り組む態度】① ここでは、積極的に様々な考えを知り、自分の考えを紹介したり、まとめたりしているかを確認する。</p>	観察 振り返りシート

※下級生への紹介については、後輩に残したいメッセージを一つの冊子にし、図書館に置いておくようにする。図書館で誰でも手に取り見ることができるようにする。

8 本時の指導計画（5／6時間）

（1）本時の目標

- ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。

【知識及び技能（3）イ】

- ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。

【思考力・判断力・表現力等C（1）エ】

（2）本時の評価規準

- ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。 【知識及び技能（3）イ】

- ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。

【思考力・判断力・表現力等C（1）エ】

（3）準備物

ワークシート、クロームブック

（4）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法 ☆Cの生徒への手立て
事前	・朝読書の時間を使って、『論語』を事前に読ませておく。（並行読書） ・クロームブックを使った電子書籍も利用する。		

<p>導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、本時の課題を確認するとともに学習の見通しをもつ。 ・第三時で示したエラーモデルを再提示し、どのようなポイントで評価をし合うのかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、思いが伝わるメッセージになるように評価し合い、自分のメッセージをブラッシュアップする活動であることを確認する。 ・最後に、「このような意図をもって、メッセージのこの部分を書き直しました。」と振り返るように指示をしておく。 ・評価のポイントは、適切に引用をしていること、引用した『論語』に対するものの見方や考え方も踏まえること、現代に通じる適切な体験や事例（特に社会的な出来事）を用いることだと確認する。 ・加えて、相手意識をもつということは、わかりやすい言葉への言い換えや補足、事例が誰もが納得するものになっているか等の評価ポイントを示す。 	
<p>課題 後輩に充実した中学校生活を送ってもらうための先輩からのアドバイスとして、事例はそれでいいか、伝えたい相手が明確かなどを中心に修正しよう。</p>			

展開	<p>・現時点での自分のメッセージを、評価項目に沿ってチェックする。</p> <p>・グループ（3～4人）で評価をし合う。</p> <p>・グループ交流で得たアドバ</p>	<p>・評価の観点を示す。</p> <p>○適切に引用をしている (体裁が整っているか、引用が自分の考えを支える根拠となっているか。)</p> <p>○引用した『論語』に対する考えがある</p> <p>○適切な事例がある (『論語』の一節と事例がつながっているか、誰もが納得できる事例であるか。)</p> <p>○後輩に対するメッセージがある</p> <p>○説得力がある</p> <p>○言葉の言い換え・補足をしている</p> <p>《生徒指導の三機能》 自己決定：自分自身のメッセージを評価する。</p> <p>・自己評価を参考にしながら、足りていない部分を補えるように、評価、アドバイスし合う。</p> <p>・評価項目に沿って考えさせる。引用が適切か、『論語』と事例がつながっているか、事例が分かりやすいものであったか、後輩にも分かりやすい表現の仕方になっているか等の視点をもたせる。</p> <p>《生徒指導の三機能》 共感的人間関係：お互いのメッセージを認め合い、自分の考えに活かす。</p> <p>・自分の考えの深まりに着目さ</p>	<p>【知識・技能①】 <u>ワークシート</u></p> <p>・ここでは、適切に『論語』の文章を引用して、下級生に伝わるようにわかりやすく書けているか確認する。 (おおむね満足できる状態 (B))</p> <p>適切な場所で、引用のルールに沿って引用できている。</p> <p>☆「『論語』には～言葉があります。」というように、引用する部分のリード文を示す。</p> <p>【思考・判断・表現等①】 <u>ワークシート</u></p> <p>・ここでは、友達の見解から自分自身の考えの広がりが見られたかを確認する。 (おおむね満足できる状態 (B))</p> <p>・評価項目で「おおむね満足できる」状況 (B) を達成し、友達の見解やアドバイスから、メッセージの修正点、改善点を見つけ、工夫している。</p> <p>☆友達のアドバイスを参考に促す。</p>
----	--	--	---

	<p>イスをもとに加筆・修正する。</p> <p>・時間があれば発表する。</p>	<p>せる。</p> <p>・タブレットで記入する。</p> <p>・自分がどういう意図をもって修正したのかを明確にして、発表させる。</p>	
<p>まとめ</p>	<p>・振り返りをする。</p>	<p>・振り返りは二つの視点（本時で学んだことやできるようになったこと、グループ共有から学んだことや気づいたこと）で書かせる。</p> <p>・なぜそのように修正したのか、思考過程に着目させる。</p>	<p>☆分からなかったことや、難しかったことも書くように伝える。</p>
	<p>【振り返りの例】</p> <p>・下級生に分かりやすく伝えるために、『論語』を読んで理解したことと体験や事例とが関連付いているかを確認し、古典を引用したり、身近な言葉に置き換えたりして分かりやすく伝えることができるようになった。最初は、古典の引用ができていなかったけれど、より根拠を確かなものにするために、引用を加えることができるようになった。</p> <p>・最初メッセージを書いたときはうまく書けているつもりであったが、評価項目でチェックをしてみると、足りていない部分があることに気づいた。特に、相手を意識して、誰もが納得できる事例を挙げる必要性を感じた。誰もが納得できるようにするために、自分の体験だけでなく、社会の出来事や偉人の言葉を事例として挙げるように修正した。</p> <p>・『論語』には、人として大切にしなければならないことなど、現代の私たちの生活にも通じるものが多くあった。だから、現在まで長く受け継がれてきたのだと実感した。『論語』を引用して書くと、より自分の考えがしっかりと伝わるようになった。後輩に伝えたいメッセージを考えたら、自分にも通じる部分があるので、これからの生活に活かしていきたい。</p>		

〈板書計画〉

後輩に伝えたいメッセージを『論語』を引用して書こう
『論語』に表れているものの方や考え方から、身近な
ことについて思いを巡らせ、自分の考えをまとめる

課題 後輩に充実した中学校生活を送ってもらうため
の先輩からのアドバイスとして、事例はそれで
いいか、伝えたい相手が明確かなどを中心に修
正しよう。

評価項目

適切な引用

引用した『論語』に対する考え

適切な事例

後輩に対するメッセージ

説得力がある内容

言葉の言い換え・補足

振り返り

- ・ 本時で学んだことやできるようになったこと
- ・ グループ共有から学んだことや気づいたこと
- ・ 分からなかったこと、難しかったこと